

■特別講演（一般公開：入場無料）

日時：平成 24 年 6 月 2 日(土) 13:00～14:30 （受付開始 12:30）

会場：岡山大学創立 50 周年記念館大ホール

講演者：高嶋哲夫（小説家）

演題：「地震・津波・原発、そして教育 ～私たちにできること～」

これまで「地震・津波・原発」について知っておくべきこと、できることを小説や新書という形を通して描き、防災・減災の必要性を訴えてきた演者に、東日本大震災の教訓をふまえ、今後の日本と社会活動のあり方についてご講演いただきます。

※高嶋哲夫氏プロフィール

日本原子力研究所（現・日本原子力研究開発機構）を経て作家に。研究員時代に原子力学会技術賞、小説でサントリーミステリー大賞、小説現代推理新人賞、北日本文学賞など受賞。

※高嶋先生にはご講演に引き続き、下記特別シンポジウム A（一般公開）のコメントーターとしてもご登壇いただく予定です。

■特別シンポジウム A（一般公開）

日時：平成 24 年 6 月 2 日(土) 15:00～17:00

会場：岡山大学創立 50 周年記念館大ホール

テーマ：「“サービス”に対するアカデミズムの役割」

【話題提供】

①「アクセシビリティ支援・教育とリーダー育成：持続可能な UD 社会を目指して」

佐野(藤田)真理子（広島大学大学院総合科学研究科、広島大学アクセシビリティセンター）

②「認知心理学・発達心理学を活かした司法面接 —その開発と訓練—」

仲 真紀子（北海道大学大学院文学研究科）

③「人の欲求と情報の帯でサービスを結び、自律したシステムを創出する —教育・ビジネス・学術の融合」

寺澤孝文（岡山大学大学院教育学研究科）

【コメントーター】 高嶋哲夫（前掲）

【企画】 寺澤孝文（岡山大学大学院教育学研究科）

【趣旨】 最近「独創的なサービスを！」という声をビジネスの領域で聞くことが多いですが、サービスは公的なものも含め、既に、いたるところで提供されています。今回のシンポジウムで取り上げる問題は、それらのサービスの多くが、ビジネスはビジネス、教育は教育、学術は学術などと、限られた領域で【コマ】のように独立した形で回っている点です。つまり、社会の様々なサービスは総じて、相互に影響力を行使できないしくみになっています。それに対して、最近、認知心理学をはじめとする学術分野で、学術的な視点や方法をアンカーとして、福祉、ビジネス、教育、法といった多様な領域で行われているサービスを融合・拡張することで、これまでにないサービス、すなわち人の欲求を引き起こすシステムが生まれ始めています。それは自由な発想を期待されている研究者が、学術

の枠を超えて研究と社会を実質的に融合することで、これまで見えなかったフィールド（サービス）を生み出せることを明示しています。本シンポジウムは、その最新の事例を紹介することを通じて、広く学術の役割も再考できればと考えています。「要素（技術や視点）を生み出しそれを広げるだけでなく、要素をつないで新たなシステム（しくみ）を創造すること」の可能性を感じていただければ幸いです。

#### ■特別シンポジウムB

日時：平成 24 年 6 月 3 日(日) 10:00～12:00

会場：岡山大学創立 50 周年記念館大ホール

テーマ：「**認知心理学の新機軸**」

【話題提供】

①「**進化心理学と認知の個人差**」

平石界（京都大学こころの未来研究センター）

②「**語彙爆発を考える**」

小林哲生（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）

③「**脳研究と芸術**」

川畑秀明（慶應義塾大学文学部）

【コメンテーター】 乾敏郎（京都大学情報学研究科）

【企画】 箱田裕司（九州大学人間環境学研究院）

【趣旨】 認知心理学の最近の流れとして注目される 3 つの展開について紹介する。進化心理学の影響、認知発達研究の急展開、脳研究の進展である。それぞれを意欲的に進めている 3 人の気鋭の研究者に話題提供をお願いする。